

ず、地震發生地域に於て其の地方の安定か否かの見做し方に二様あるべしと憶測せんか  
即ち

一、強弱震が屢々發して次第に其の地殼の弱點を充たし漸次に安定約合の状態に達す。  
是れに反して

二、其の地域がすでに著しき不約合の状態にあるが爲めに屢々強弱震を發し是れによりて現今は辛うじて姑息の約合を保するも遂には基本的衝合を破り大地震を發生するの順序に到達すべし。

東京灣附近の地震の如きも蓋し充分調査研究に價すべきと信ずるものなり。一昨年の相模大地震の如き大地震後に於ては其地方は暫く安定を得べきも強弱震の小規模の震源が例へ其他に踵を接すと雖も必ずしも安定なりと斷言し得ざるは賢者の言を俟たざるべきなり。

---

## 蒐 報

---

コロの捲き方に就て

岡 田 武 松

地震の観測には精確な時計が是非必要でありまして、精巧な振り時計例へばデントとかリーフラーなどが最も之に適當して居ります。然し日本の様に自分の所で地震が度々起る所では振り時計は止まる恐れが多いのと、止まらなくても地震で日差が狂ふと言ふので用ひられない。止むを得ず船用クロノメーター所謂コロを使用します。コロはいくら良品でも精巧な振り時計程には精確でない、乃ち地震観測には精密な振り時計が使へないので止むを得ずコロを使ふのであつてコロの方が精密だから使ふのではないのは申すまでもありません。

さてコロを使用いたすには色々の注意が必要であります、例へば日の當る所に置くなごは以ての外でありますが温度の變化の著しい處に置くのも宜しくない、夫ては日差が揃ふ筈がありません、又地震計室などでツイ蓄電池やその他有害瓦斯の發生するもの、近傍にコロを置く向もあるがあれは途法もない事でありましてコロに錆が來るのは的面である。元來蓄電池の様なものには地震計室の外に置かなければならないものなるは之も亦申すまでもありません。

コロを捲く時にグウツグウソとかドを立て、捲く人があるがあれは甚だ悪い、バネを捲き切るのは多くその爲であります。コロを捲くのはジワ／＼と柔らかに捲いてゆき最後一寸手應へがあります時にすぐ止めるのが法であつて、コレは毎日捲くときにその呼吸でゆきコツをのみ込む必要がある。コロを捲き切るなどは「技術者の恥」であります。コロは二日捲きものを毎日定時に捲いて使ふのが最も良好

の結果を得られます、八日捲きのものなら中三日づゝ置いて定時に捲いて使ふのが宜ろしいとしてあります。八日捲きだから八日毎に捲くなどは素人の業と思はれる。

一個のコロの捲き方にもコツと呼吸あり、技術家として生きるのは決して生容易しいことではありませぬ。今コロを捲く手順を次に掲げます。

- 一、コロの本體を靜かに倒さにして表時面を下にし底を上にする。
- 二、左の手で之をしつかりと抑へてゐて、左手の一指で底にある捲孔の防塵蓋を開けて置く様にする。
- 三、右手で鍵を持ちジワ／＼と極く穩かに捲き、捲き數を口の中で勘定すること。
- 四、捲いて行つて手應へが軽く感じる程度で捲くのを中止する。
- 五、捲き終つたらコロの本體を正位にして表時面を上にし捲きを表はしてゐる針がコロを指してゐるか否かを確かめること。

要するにコロを捲く秘訣はジワジワと穩かに捲き決して角を立てゝ捲かぬ事の一句に悉きてゐる。

兎も角もコロを捲き切るのは多くは角を立てゝグウグウと捲くのが原因となるのであるから之は特に注意する必要がある。又捲き止まりの手應へがあつても尙ほ勇敢に一捲きやつてコロを切ることもあるが之は技術家としては論外のことである人はコロを使ふ資格の無い人と申しても決して差し支がない。